

治山林道協会報

新年のあいさつ

徳島県治山林道協会会長 山口 俊一



令和三年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、ご壮健で新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より本県の治山林道事業推進に格別のご支援、ご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

さて、今年「丑年」ですが、牛は古くから農業や酪農で人間を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢(耐える)」、「これから発展する前触れ(芽が出る)」というような年になるといわれています。

昨年は、一月に我が国で初めて新型コロナウイルス感染症が確認され、その後、全国的に感染が拡大し、社会経済活動が大幅に制限されたため、日常生活のみならず経済社会全般に大きな影響を及ぼした一年でした。

また一方世界に目を向けますと、アメリカでは、トランプ政権下で、大統領選挙が迫る中、アメリカ社会は所得格差・人種差別により、国内の分断が更に深刻化しました。そして、コロナウイルス感染症に関する中国の初期対応に端を発したアメリカ・中国の冷戦状態は、国際情勢の不安定化に直結する深刻な問題に発展しました。特に、安全保障をアメリカに、経済を中国に大きく依存している日本にとっては、難しい舵取りを迫られました。

この様に国内外において課題の多い中、本県での豪雨等による自然災害はここ数年間では比較的少なかった年でありましたが、全国に目を移せば、七月豪雨では九州地方をはじめ各地で記録的な豪雨により、河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。まさに、「事前防災・減災対策」が必要不可欠な取り組みであり、これまで以上にスピード感をもった対応の必要性を痛切に感じました。

このため、林野公共事業におきましても、

昨今の「過去に例のない気象状況」が続いている中であって、頻発化する豪雨による甚大な山地災害の状況を見据え、また、近い将来発生が危惧される巨大地震に備える事前防災・減災対策としての「緑の国土強靱化」、そして「林業の成長産業化」「森林吸収源確保」を推進する上で、更なる予算確保に向けて、「二〇二〇治山・林道のつどい」をはじめとした要望活動を展開して参りました。

その結果、「防災・減災、国土強靱化のための五カ年加速化対策」が創設され、その初年度の令和二年度第三次補正予算としまして、治山事業費で四六一億円、森林整備事業費で四九六億円、総額九五七億円が計上されました。更に令和三年度林野一般公共当初予算につきましては、全体では一、八六八億円、対前年度比一〇二・一%となり、治山事業費で六一九億円、森林整備事業費では一、二四八億円が計上されました。そして補正予算と当初予算を合わせますと、二、八二五億円となり、目標としていました昨年・一昨年の二、六〇〇億円を大きく上回る予算を確保することが出来ました。

これからも「予算の確保」、そして「事業の着実な執行」にあたりましては、当協会の会長として、また、「森林整備・治山事業促進議員連盟」(社)日本治山林道協会・日本治山林道協会の会長として、これまで以上に治山林道事業の推進に精一杯努力して参ります。

今年、十二支の二番目で、芽吹きを迎えようとする「丑年」です。令和になって初めての丑年、令和三年が皆様と一緒に「災害列島」そして「新型コロナウイルス」を克服し、希望に満ちた年になることを心より願っております。

結びとなりますが、今後とも、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員皆様の更なるご活躍、ご健勝を心より御祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

● 新年のご挨拶	徳島県知事(全国知事会会長) 飯泉嘉門 ... 1	● 災害支援派遣活動報告(栃木県)	... 11
● 新年のご挨拶	徳島県農林水産部長 松本 勉 ... 2	● 令和2年度森林土木総合技術研修開催	... 13
● 治山林道事業に関する知事への要望	... 3	● 年男の抱負	... 14
● 森林整備・治山事業促進議員連盟「緊急決起大会」及び「2020治山・林道のつどい」開催	... 5	● とくしま木づかいフェア2020への出展	... 15
● 令和2年度日本林道協会通常総会及び治山・林道コンクール表彰式開催	... 6	● 本協会の主な動向(10月~12月)	... 15
● 治山林道技術研修会開催	... 7	● 編集後記	... 15
● 第60回治山研究発表会(最優秀賞)	... 9		

目次
CONTENTS

新年のご挨拶



徳島県知事（全国知事会会長）

飯 泉 嘉 門

明けましておめでとございます。

徳島県治山林道協会の皆様におかれましては、輝かしい新年をお健やかに迎えることと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が、世界に不安と混乱をもたらし、私たちの生活を一変させました。新たな感染症が人類の脅威となる中、自身の感染リスクも顧みず、最前線で闘う医療従事者の姿に、県内が「感謝とエールの藍色」に染まりました。

本県では、この歴史的危機に立ち向かうべく、検査機能の強化や医療提供体制の確保はじめ、国の「持続化給付金」を導いた百万円限度「融資額連動型の企業応援給付金」、利用泊数四万二千人泊を超えた「夏のとくしま応援割」、イベント・リスタートの象徴「ニューノーマル」阿波おどりの祭典、感染拡大と人権侵害の防止に県民・事業者・行政が一丸となって取り組む「新たな条例」の制定など、「感染症に強いスマートな徳島の創造」と「力強い経済の再生」に全力を傾注して参りました。

一方、大都市部の感染リスクの回避と人口集中の是正に向け、「中央省庁の地方移転」「大企業の地方分散」「地方大学の魅力化・定員増」による大胆な国家構造の転換が求められる中、明治開闢（かびやく）以来初めて、国の本庁機能が

地方へ広がる「消費者庁新未来創造戦略本部」の開設、テレワークをはじめ徳島発の「サテライトオフィス」による新しい働き方の実装、「ポストLED」を核とした修学・就業機会の創出など、時代を先取りする本県の取組みが「新次元の分散型国土」の形成を先導しました。

森林土木分野では、激甚化、頻発化の一途をたどる自然災害の猛威に対し、国の「防災・減災、国土強靱化のための三か年緊急対策」を積極的に活用し、治山事業二十二カ所、林道事業十一路線の災害復旧や事前防災対策を全力で進めて参りました。

さらに、平成三十年七月豪雨により甚大な被害がもたらされた三好市山城地区に関しても、粘り強く国へ要望を続けた結果、令和三年度当初予算での「直轄治山事業」が盛り込まれ、早期かつ確実な復旧に大きな一歩を踏み出すことができました。

さて、今年の干支は「辛丑（かのとうし）」。 「辛」は「新」に通じ、伏在していたエネルギーが発現する「万物の新生」を表し、「丑」は「嬰兒が手を伸ばそうとする姿」から「物事の始まり」を意味します。そこで、「辛丑」は、「次世代のトレンドを掴み取るため、現状打破する『革新』を繰り返す」とされます。

今年、東日本大震災から十年という

節目に、日本の復興を示すだけでなく、

世界がコロナを乗り越える希望として「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催されます。県内では、次世代の乗り物「DMV」が世界初の営業運行を開始するとともに、VRシアターはじめ「新未来型展示」へトリニユールする県立博物館、開園二十周年を迎える「あすたむらんど徳島」に都道府県立で初の「徳島木のおもちゃ美術館」が、オープンします。

また、本県はじめ全国知事会からの提言により実現した「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」がスタートします。森林の山地災害防止機能を最大限に発揮させる「県土強靱化」を一層加速させ、安全・安心の確保に全力で取り組んで参ります。

人口減少、災害列島、新型コロナウイルスの「三つの国難」を打破し、県民の皆様は、「W I T H コロナ時代」から「アフターコロナ時代」の新たな地方創生を実感頂けるよう、頑張つて参りますので、本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

結びに、徳島県治山林道協会の今後ますますのご発展と、会員の皆様のご健勝、ご活躍を心から祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



徳島県農林水産部長

松本 勉

新年明けましておめでとうございます。徳島県治山林道協会の皆様には、つづがなく新しい年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

平素より、治山林道事業をはじめ、本県農林水産行政全般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大が、国内外での社会経済活動にこれまで経験したことがない大きな影響をもたらすとともに、我々の日常生活においても、当たり前と思っていた様々な常識が大きく「激変」した年となりました。

本県の林業・木材産業においても、資材調達難による住宅建築の遅れや、国内外での木材需要の減少による在庫の増加、減産、入荷制限など、森林所有者をはじめ関連事業者に大きな影を落としました。

このため、県では、新型コロナウイルスの感染拡大により影響を受けた林業事業者や木材関係事業者に対し、素材生産以外の業務の発注による雇用の確保や、滞留する原木や建築資材等の流通の円滑化を図るとともに、災害時の仮設住宅への供給や新たな需要創出対策など、積極的な支援に取り組んで参りました。

その一方、近年、豪雨災害が増加する中、「七月豪雨」では記録的な豪雨をも

たらし、九州地方をはじめ全国で河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われるなど、自然災害は頻発化・激甚化の傾向が続いております。

こうした中、平成三十一年度の本県の政策提言により認められた「防災・減災、国土強靱化のための三か年緊急対策」を積極的に活用し、治山施設や林道の重要インフラの緊急点検を実施し、これまでの三か年で約六億四千万円の国費をもとに、二十二カ所の治山施設で復旧・予防対策、十一路線の林道で改良工事を実施するなど、早期の災害復旧や事前防災対策に取り組んできたところであります。

さらに、国は、多発する自然災害を受け、「防災減災・国土強靱化」を機動的・弾力的に進めるとともに、災害からの復旧・復興を加速するなど、安全・安心の確保に資するため、「国土強靱化三か年緊急対策」を継続・拡充し、新たに五か年間を期間とした「防災・減災、国土強靱化のための五か年加速化対策」を実施することを決定し、初年度の予算が第三次補正予算案に盛り込まれたところです。

これを受け、決定した令和三年度当初予算案に第三次補正予算案を加えた林野公共事業予算は、前三か年緊急対策を大きく上回る二千八百二十五億円が確保され、更なる防災・減災対策を押し進めることとなりました。

県といたしましても、これらを最大限に活用して、令和二年度補正予算及び令和三年度当初予算の編成に取り組みむこととしており、今後とも、森林から国土強靱化を図るよう、山地災害危険地区への治山施設の設置や、発災時には緊急輸送道路ともなる林道の整備など、積極的な事業展開を図って参ります。

また、日頃から、山地災害や土木技術に関する専門知識を有する「山地防災ヘルパー」の皆様には、危険地区の情報提供や点検・パトロールについてご協力をお願いしているところですが、今年度は、「山地防災ヘルパー」の更なる増員に加え、「ドローン」を活用した危険箇所(point)点検や「森林GIS」による情報の一元化など、地域と一体となり、いち早く、より広範囲に災害の兆候を把握できるよう取り組んで参りたいと考えております。

今後とも、こうしたハード・ソフト両面からの対策を一体的に進め、猛威を振るう自然災害に備える「緑の県土強靱化」に全力で取り組んで参る所存ですので、協会会員の皆様の一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びにあたり、徳島県治山林道協会へますますのご発展と会員の皆様のご健康、ご活躍を祈念申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息を願い、新年のご挨拶とさせていただきます。

治山林道事業に関する 知事への要望

令和二年十二月二十一日 飯泉徳島県知事に対し「治山林道事業に関する要望」を、山口会長はじめ役員十二名で行いました。

要望の主な内容は

- ・「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の推進に必要な予算の確保
- ・大規模災害に備えた事前防災・減災対策、復旧対策の充実と強化など「緑の国土強靱化」の推進
- ・「森林吸収源確保」のための森林施業や「林業の成長産業化」の実現に向けた林道を核とした路網整備の推進
- ・山間奥地、急斜面等条件不利地での設計積算について更なる見直しによる適正な利益の確保

の四点について、令和二年度補正予算を含め、令和三年度当初予算編成に向けた要望を行いました。

これに対し知事からは、引き続き「防災・減災、国土強靱化」に取り組み、国の補正予算、令和三年度当初予算を最大限活用し、治山林道事業を更に推進するとの力強いお言葉がありました。

要望事項は次の通りです。



治山林道事業に 関する要望書

平素は、治山林道事業の推進並びに本会の活動につきまして、格別の御配慮を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、森林は、地球温暖化防止や水源の涵養^{かんよう}、山地災害の防止等の多面的機能を有し、私たちの豊かな暮らしを育むなど、国民の生活に欠かすことのできない重要な役割を果たしております。

一方で、近年、気候変動の影響に伴う豪雨等により、全国各地で山腹崩壊や林道の決壊等甚大な被害が多発しており、今年も九州地方をはじめ各地で記録的な豪雨により河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。

さらに今年は、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大に伴い、社会経済活動が大幅に制限され、日常生活のみならず、林業・木材産業へも少なからず

影響を与えるなど、森林・林業を取り巻く現状は厳しさを増しております。

このような状況の中で、山村経済を活性化し、地方創生を実現するため、国産材の安定供給体制の確立に向けた生産基盤の整備や、間伐・再造林の取り組みをより一層推進することが課題となっております。

また、頻発化する台風・前線等に伴う「豪雨災害」や近い将来発生が危惧される「南海トラフ巨大地震」、「活断層地震」などの「大規模な自然災害」に備える山地防災力の強化が強く求められています。

これらに対応するためには、山地災害等に対する事前防災・減災対策の推進や効率的な林業経営に向けた幹線林道整備の加速など、「緑の国土強靱化」に資する治山林道事業の円滑な遂行が不可欠であります。

つきましては、県の財政事情が非常に厳しい中とは存じますが、令和二年度補正予算を含め、令和三年度当初予算編成

にあたりましては、次の事項について、特段の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

○「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の推進に必要な予算の確保

○集中豪雨や台風、南海トラフ、活断層帯の地震による大規模災害に備えた事前防災・減災対策、復旧対策の充実と強化など「緑の国土強靱化」の推進

○「森林吸収源確保」のための森林施業や「林業の成長産業化」の実現に向けた林道を核とした路網整備の推進

○山間奥地、急斜面等条件不利地での設計積算について更なる見直しによる適正な利益の確保

令和二年十二月

徳島県治山林道協会 会長

山口 俊一

森林整備・治山事業促進議員連盟 「緊急決起大会」及び 「2020治山・林道のつどい」開催



2020治山・林道のつどい

令和二年十一月十八日午前十一時から、森林整備・治山事業促進議員連盟「緊急決起大会」が自民党八階ホールにおいて開催されました。この大会は、「三密」を回避するコロナ対策を講じつつ開催され、このような状況下にもかかわらず国会議員六〇名をはじめ関係者約三〇〇名の方々が参加されました。



決起大会で挨拶する山口会長

野公共事業予算二、六〇〇億円に上積み出来るよう、関係者一丸となつて取り組んでいきたい。」と力強い決意が述べられた後、「緊急三年対策」後の中長期的な観点に立った必要・十分な予算の確保を含めた森林整備・治山事業予算の拡充等が決議され、盛会の内に終了しました。

そして、同日午後、全国治山林道協会長会議が主催で、東京都港区の赤坂インターシティコンファレンスにおいて「二〇二〇治山・林道のつどい」が開催されました。今年度は新たに全国森林土木建設協会、日本林業土木連合協会が共催となり、更には全国各地よりウェブによる参加があり、コロナ対策による人数制限を実施したにもかかわらず昨年とほぼ同じ約四〇〇名の方々が参加されました。

この「つどい」は、頻発する山地災害や森林・林道被害を受け、地域の社会基盤である森林・山村を守るため、治山事業及び森林整備事業による「緑の国土強靱化」、林道等路網整備の強力な推進に向けた林野公共事業予算の拡充を実現するための関係者一丸となった要望活動として行われ、「基調報告」そして現場からの声として「災害に関する報告」の後、決議文が採択されました。

翌十九日には、本県選出の国会議員に対し、決議内容について要望活動を実施し、各事項についてご理解ご賛同をいただきました。



令和2年度日本林道協会通常総会及び 治山・林道コンクール表彰式開催

令和二年十一月十九日、東京都港区の赤坂インターシティコンファレンスにおいて、日本林道協会の令和二年度通常総会が開催されました。

まず、来賓として出席された本郷林野庁長官の挨拶があり、「森林整備の推進や森林資源の高度利用、林業の成長産業化等のためにも林道事業の予算確保は必須であり、林野庁としても全力を尽くす決意である。」とお言葉をいただきました。

その後山口会長が挨拶に立たれ、「昨今の過去に例のない気象状況が続いている中において『防災・減災、国土強靱化三カ年対策』が今年で終わり、こ

の後どうするかが極めて重要である。このような中で補正予算、当初予算の検討が行われており、予見性のある当初予算の確保とともに、林野公共事業として補正予算と併せて最低でも二、六〇〇億円を、出来れば二、七〇〇億円以上を確保したい。」との力強い挨拶がありました。

続いて山口会長が議長に就任し、議案第一号から第五号まで全会一致で原案どおり承認されました。

総会に引き続き、創立七十周年記念林道功労者表彰式及び令和二年度治山・林道コンクール表彰式が行われました。本県では、コンクール表彰では五部

治山・林道工事表彰

林道維持管理表彰



日本林道協会通常総会



門で受賞され、また林道功労者表彰では二名が表彰されました。
受賞者の皆様方は次のとおりです。誠にありがとうございます。

治山・林道コンクール表彰者

林野庁長官賞

●第三十六回民有林林道工事コンクール

勝浦建設株式会社

廣安 稔子

●第三十六回民有林治山工事コンクール

上勝町 生実八重地線

生実工区 原 智恵子

●第二十一回民有林治山木材使用工事コンクール

美馬市 復旧治山事業

横倉 幸佑

●第四十三回林道維持管理コンクール

那賀町長

坂口 博文

●第二十一回民有林林道木材使用工事コンクール

三好市 川崎国見山線西祖谷山区

小林 広

●日本林道協会会長賞

徳島県治山林道協会

津田 修

●日本林道協会会長感謝状

徳島県治山林道協会

渡邊 ゆかり (元職員)

●日本林道協会創立七十周年記念林道功労者

徳島県治山林道協会

津田 修 (前専務理事)

●日本林道協会会長感謝状

徳島県治山林道協会

渡邊 ゆかり (元職員)

治山林道技術研修会開催

十二月七日から九日の三日間において、徳島県建設業協会及び徳島県のご協力のもと、令和二年度治山林道技術研修会が開催されました。

今年度の技術研修会は、新型コロナウイルス感染症対策として「三密回避」のため、会場を西部・東部・南部に三分割し、七日の三好市西部会場を皮切りに開催され、延べ一五八名もの会員が受講されました。



会長の挨拶

初日の三好会場では、急きよ山口会長が出席され、国の新年度予算の審議状況の報告を交えた挨拶をいただいた後、講師の諸先生方による、近年の山地災害の発生状況及び事前防災・減災の推進、安全で事故のない現場管理、そして日々変貌する労働環境の変化への対応など会員の技術力向上を目指した研修を実施しました。

また、受講者には全国土木施工管理技士会連合会の継続教育学習制度CPDSの受講証明書(6unit)が交付されました。

研修の講師及び概要については次のとおりです。
(敬称は略させて頂きます。)

■研修Ⅰ 近年の山地災害の発生状況について

徳島県農林水産部農林水産基盤整備局

森林整備課 主査兼係長 藤丸 佳典

毎年日本各地で豪雨による山地災害が激甚化・頻発化する傾向にある。近年の徳島県内での山地災害発生状況を解説するとともに、今後の豪雨災害への事前防災・減災対策の推進について考える。

■研修Ⅱ 労働安全衛生について

徳島労働局健康安全課 地方産業安全専門官

吉原 孝司

三好労働基準監督署 労働基準監督官

小笠 元裕

阿南労働基準監督署 監督・安衛課長

吉成 俊輔

地方労働衛生専門官

木村 明人

全国の労働災害建設業関係の概況と徳島県における労働災害の実態について解説する。そして、その具体的事例から原因究明と治山林道現場における労働災害の回避策についての演習を行う。



西部会場

■研修Ⅲ 気象台の発表する「防災気象情報」について

徳島地方気象台 土砂災害気象官 真鍋 恒夫

予報官 上山 仁司

近年、台風や集中豪雨が大規模化・頻発化する傾向にあるが、これらにより引き起こされる災害について、大雨警報、暴風警報等の防災気象情報とその効果的な利用について解説する。

特に、数十年に一度の降雨量となる大雨が予想さ



東部会場

れる場合に発表される大雨特別警報について理解を図り、各現場における事前防災・減災対策に資することを目的とする。



南部会場

■研修Ⅳ スマート林業プロジェクトの展開における治山林道事業との連携

徳島県農林水産部スマート林業課

プロジェクト推進室 室長補佐 木本 正二

徳島県では、森林・林業を「核」とした「地方創生」の実現を目指し、平成十七年度より、林業プロジェクトを実施している。現在展開されている「スマート林業プロジェクト」では路網整備と機械化等により県産材生産量の拡大を目指しているが、その内容及び治山林道事業の役割について解説する。

■研修Ⅴ 土木技術者の原点と今後の対応セ

ミナーⅥ

株式会社コンピュータシステム研究所

松野 哲哉

新担い手三法の改正により、本格的に働き方改革・生産性向上・災害時の緊急対応強化が進められることとなったが、その変化は多岐に渡り、現場のあらゆる側面に影響を及ぼしてきており、その対応策が求められている。

このため、その内容を詳しく説明するとともに、「発注関係事務の運用に関する指針」に基づいた施策等について解説する。



第六十回治山研究発表会（最優秀賞）

ドローンを活用した 民国連携による取組について

徳島森林管理署 主任治山技術官 敷地友和
徳島県東部農林水産局(吉野川) 主任主事 亀谷 遼

一 はじめに

近年、地球温暖化の影響から、全国各地で自然災害が頻発化・激甚化し、毎年のように山地災害が発生しており、発災時には、規模、保全対象への影響など被害状況の把握は、災害対応を行う上で重要となります。

しかし、従来の現地踏査による情報収集では、多くの時間や労力を要するだけでなく、二次被害などのリスクが隣り合わせにあることから、最近では、迅速かつ安全に被害状況の把握が出来るドローンを活用する事例が増えています。

一方、治山担当職員の減少、世代交代による若返りなど、現状の人員だけでは対応には限界があり、組織の枠を越える横断的な連携強化が急務となっています。今回、全国初となる徳島県や地方自治体と四国森林管理局が締結した「ドローンの利活用に関

する協定」に基づき、災害調査や災害時を想定した情報収集演習など民国が連携した取組について報告します。

二 これまでの取組

ドローンについては、平成二十五年より森林事業での活用として配備が開始され、以降、四国森林管理局及び徳島県では機体配備と操縦士の育成を進めています。

また、徳島県三好市と徳島森林管理署では、以前から森林林業再生の取組を進める中で、林野災害発生時の対応が懸念されていたため、平成二十九年三月に「全国初」となる「林野災害時等における無人航空機等を活用した活動支援の運用に関する協定」を締結しました。

翌年の平成三十年七月豪雨により、三好市をはじめ



写真1 協定締結の状況

め県内各地で大規模な山地災害が多発したため、協定に基づき、徳島森林管理署がドローンによる被害を調査し情報提供を行いました。

その後、徳島県の要請により県内各地の民有林でも調査支援したことを契機とし、徳島県と四国森林管理局で、双方の知見を生かしドローンの利活用や研究、人材育成を目的として、平成三十一年三月に「林野災害時等におけるドローン利活用に関する協定」（写真1）を締結しました。

三 発災時情報収集演習の実施

協定に基づき、民有林で発生した山地災害を想定し、ドローンを活用した林野災害時の情報収集演習（写真2）を、徳島県、四国森林管理局、徳島森林管理署、町、地域災害ボランティア等との合同により、令和元年六月及び令和二年十月に実施しました。演習では、現地映像のリアルタイム配信を林野庁ほか関係機関へ行うとともに、自動操縦による測量飛行や、ソフトによる空撮画像の解析及び図面作成



写真2 現地演習の状況

などを行いました。

映像配信では、映像がぶれることもなく鮮明に現地の状況を把握できましたが、課題として、タイムラグの発生や、一部で通信環境の影響から映像が途切れることなどが確認されました。また、解析や図面作成（図1）が、短時間で簡単に作成でき、参加者からは有意義な演習だったとの意見を頂くなど、民国連携による取組に期待が高まりました。

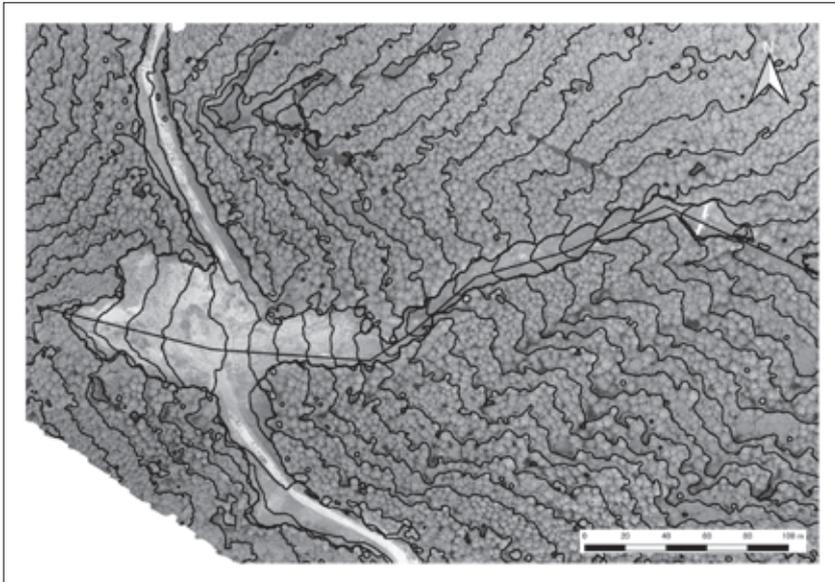


図1 演習で作成した画像

四 今後の取組について

森林土木分野では現在、ビッグデータ、AIなどの取組はまだまだ進んでいない状況です。今後は、治山施設や山地災害危険地区の点検におけるドローンの活用や、同時多発的な災害対応など災害情報の迅速かつ的確に把握に努めるとともに、スマート技術の活用に関する研究や課題の解決に向け、「技術の伝承」や「人材育成」など、民・国が双方の知見を生かし、より一層の連携強化を進めていきたいと考えています。

※本発表は、昨年十一月に開催された「第六十回治山研究発表会」（治山研究会主催）において、全国の参加者の中から、第一セクション（山地災害からの復旧対策、事前防災等における取組）の最優秀賞を受賞しました。



写真3 発表者
（左側：敷地さん、右側：亀谷さん）

災害支援派遣活動報告（栃木県）

栃木県南環境森林事務所 主任 桑田 悠司

災害の概要

令和元年十月六日に発生した台風十九号（令和元年東日本台風）は、十日から十三日にかけて、東日本各地に記録的な豪雨をもたらしました。長野県千曲川の堤防決壊が記憶に新しいことと思います。

栃木県南地域（佐野市、栃木市、足利市等）においても、十二日から十三日にかけての豪雨により、甚大な被害が発生しました。治山林道関係の被害額は、林地（治山関連）で六十一箇所、八億五千万円、林道で八十六路線の一億一千万円となっています。

活動状況

私は、被災した林地の復旧支援のため、令和二年四月から一年間の予定で栃木県へ派遣され、栃木県南環境森林事務所において、治山林道担当者三名の栃木県職員の方々とともに、災害復旧に向けた事業の測量設計、現場監督業務等に取り組んでいます。

被災当時の状況については、本地域の佐野市葛生観測所で、日最大二十四時間降水量四百十ミリを観測しました（気象庁HPより）。これは、本地点の



写真① 被災時の土砂流出状況（ドローン撮影写真：管内測量会社提供）



写真②-1 被災時の土砂流出状況



写真②-2 排土実施後の状況

年間平均降雨量が約千五百ミリであることから、一年の三割近くの降水量が一日で降った計算です。

また、本地域の地質は、関東ローム層と呼ばれる、

火山性の厚く堆積した粘性土層が多くを占めています。通常では安定した地盤を形成しますが、掘削や水あたりにより、粒子の結合がくずされると脆くなる特徴があります。以上のことから、写真①、②のように、土砂の流出が顕著であり、流路工の閉塞や暗渠詰まりなどの被害が多く見られました。

現在、私が担当している現場においても、前述のような地質への対応が求められています。崩壊した山腹において、土留工を計画している現場では、周辺の掘削を進めていく過程で、当初想定していたような地質が出ないのでないか、と推測されました。このため、掘削前に試掘を行い、一点載荷試験を実施したところ、許容支持力が不足することが推定されました。現在、工法を再検討・変更した上で、早期の完成に向けて取り組んでいるところです。関東特有の地質に取り組むことは、困難ですが貴重な経験をさせていただいていることに大変ありがたく感じています。

本事務所では、様々な課題がある中で、早期の復旧に向けて、組織一丸となって業務に取り組まれています。私自身も、栃木県での復旧事業に少しでも



写真③ 山腹崩壊により人家が倒壊した箇所（住人の方は救出されました）

お役に立てられるよう、微力ながら力を尽くしたいと思います。また、栃木県で経験させていただいたことを、少しでも徳島県に持つて帰ることができればと考えています。

それでは、現場での作業も寒い時期となりましたが、どうぞ御安全に、お体を大事にお過ごしください。



現場を管理する桑田主任

令和二年度 森林土木総合技術研修開催

令和二年十一月二十五日から二十七日までの三日間、徳島市南庄町の徳島県林業人材育成棟において、令和二年度森林土木総合技術研修を開催しました。本研修会は、毎年六月に、全国森林土木建設業協会主催で、東京における集合研修として実施していましたが、今年度は新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、WEB会議システム「ZOOM」を使用したオンライン形式で実施しました。



研修状況

研修では、全森建の川野専務理事による「公共事業を取り巻く諸情勢について」の講義を皮切りに、「森林土木工事におけるICT施工」などの非常に興味深いテーマでの講義が行われました。年末に近い多忙な時期での開催でありましたが、七名の会員が受講され、CPDS単位が合計57unit交付されました。

森林土木総合技術研修に関するレポート

多田工業㈱ 多田 久仁男

この度コロナ禍のなか、新たな取り組みとしてオンライン講習に参加させていただきました。

オンライン講習のメリットとしては、地方にもネット環境等ハードが整備されていればコスト削減が可能で東京での講習会と同等の効果はあるのではないかと思います。

また、今回三日間のうち研修二日目のみの受講でしたが、例えば三日間の各講義を選択式とし、自身が受講したい項目を可能としていただければ、よりコスト削減とその相乗効果は十分得られるのではないかと感じました。

まず、日本の路網技術と題して酒井講師による講義については、過去に起きたであろう地殻変動やその地形地質と地域に応じた路網計画が重要である事を再認識させられると同時に、その計画された路網が継続的に低コストで利用可能となる事が必要で、

より森林資源の計画的管理ができる手法を導き出す方法について改めて考えさせられました。

次に、建設業界においては、担い手三法の改正に伴い働き方改革や建設現場の生産性の向上など持続可能な事業環境の確保が重要な課題となっており、今までのスピード感では対応しかねる事が多々出現している状況です。特に私どもの住んでいる地方のまたその外れのような地域においては、作業員の雇用にも大変な労力を必要としている環境であるので、若干の温度差はあると感じています。

また、森林土木工事におけるICT施工についても、現場地形状況と施工機械（及び器械）の性能が小規模工事の施工時には、コスト削減とは一概に言えないところがあるため、今後の状況を注視しながら対応することでも良いのではないかと考えます。

本講習会においては、オンライン形式ということ初めての試みであったと思われませんが、今後はこうしたオンライン形式での講習が普及することが必要であると感じました。

最後になりますが、本講習会に係わられた関係各位の皆様方には厚く御礼を申し上げます。





「新年に思うこと」(Part 3)



徳島県立農林水産総合
技術支援センター

駒留 勇人

明けましておめでとうございます。会員の皆様には、輝かしい新年をお健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、森林土木担当を離れて約八年、思いがけず「治山林道協会報」の「年男の抱負」をお受けすることとなりました。実は三回目の「年男の抱負」になるのですが、過去の協会報を見ると、平成九年には「新年に思うこと」と題して、PCの活用やインターネットによる情報発信、更にはPC人材の育成の重要性について書かせていただきました。

あれから二十四年、職場へのPC導入は進み、業務管理や設計積算、ネットワークによるリアルな情報共有など業務全般が効率化され、担当者の残業も減り、現場技術の向上と森林の保全・活用が進んでいるはずでしたが・・・。効率化はされたものの業務量は増え、資料作成に追われて現場に向く時間も減り技術力が低下、更には山地災害の頻発など、当時考えていたモノとは少し違ってきました。

そのような中、最近、DX(デジタルトランスフォーメーション)という単語をよく目にしますが、Wikipediaには「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念の

ことを指すと書かれています。

DXの最も重要なところは文字どおり「人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」であるため、これまでの「デジタルによる効率化」に加えて、「アナログ(人)を意識した効率化」へと変化させていくことが大切になってくるのではないかと思っています。

私自身、どちらかというと、これまで業務に関係する「デジタル化」を進めてきましたが、実際のところ、スマホは使いこなせていないし、アプリの使い方もよくわからない。このような私が入庁から三十七年目を迎え、新年に思うことは、デジタル化も大切だが、何事にもアナログ感を持ち非効率でも着実に進めていくことが今、森林土木担当者に求められているのではないかと思っています。

まだまだコロナ禍は続きますが、本年が会員皆様にとりまして幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

「新年に思うこと」



森林整備課
森林整備担当

黒下 憲彦

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、皆様方には何かとご指導ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

本年も昨年同様よろしくお願い致します。

さて、年をとるのは早いもので、気がつけば四回目を年男を迎えることになりました。振り返りますと、入庁した時代は、バブル景気で世の中も大変活気があり、また、自分自身も若かったことからたくさん楽しい思い出できました。毎月のように飲み会があり、先輩方には、お酒の飲み方やマナーについて厳しく指導していただいたおかげで、職場でのコミュニケーションもとれていたように思います。また、仕事が終わった後や休みの日でも、職場の先輩方と遊びに行ったりを今でも思い出します。現在に目を向けてみますと、昨年は、新型コロナウイルスが猛威を振るい、県内でも鳥インフルエンザも発生し、誰も予想出来なかった世の中になっています。幸いなことに自然災害については、近年では少ない方で不幸中の幸いであったように思いますが、このような状況を経験すると、いかに普通に過ごせていたことが、幸せで楽しかったのかを実感しています。一日でも早く今までの普通の生活に戻れることを祈らずにはられません。

また、仕事に関して言えば、入庁後、県有林の担当をし、監視員さんと山を歩きまわり、ついに行けず体力のなさを痛感する毎日を過ごし、その後、治山では、崩壊地や荒地を自然に山に戻す難しさを教わり、林道では、森林整備に役立つ林道のあり方を学びました。他部局へも行かせていただき、いろいろな経験をし、身についたかどうか分かりませんが、今後の仕事に少しは役に立つのではないかと思っています。現在は、初めての県庁で林道を担当させていただき、仕事内容の事務所とのあまりの違いに戸惑うばかりで、周囲に迷惑をかけてばかりです。

これからは、今までの経験を活かし少しでも皆様の役に立てるよう努力したいと思います。

最後になりましたが、本年も皆様方にとりまして素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。私のご挨拶とさせていただきます。

とくしま木づかいフェア2020の開催



令和二年十月十七・十八日の二日間、板野町「あすたむらんど」において、とくしま木づかいフェア2020が開催され、徳島県治山林道協会としては、六年ぶりに出展しました。

初日は、あいにくの雨模様でしたが、二日間で約四千人の来場者があり、親子連れを中心に、興味深く展示を見ていただきました。

出展内容としては、治山林道工事における木材の利用状況や防災減災等に関するパネル展示をはじめ、「林道ナビ」及び「保安林の働き」等のPRを行いました。

治山林道事業は、日頃から「県民の暮らしの安心安全の確保」、そして林業を支える「緑の下の力持ち」として、今後ともこの様な機会を設け、幅広く県民にPRして参りたいと考えております。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大という予想だにできなかった災禍に見舞われたものの、本県での豪雨等による災害はここ数年間では比較的少なかった年でありました。しかしながら全国に目を移せば、7月豪雨では九州地方をはじめ各地で記録的な豪雨により河川の氾濫や土砂災害が発生し、多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。

こういったことから「防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策」が創設され、令和2年度補正と令和3年度当初を合わせた林野一般公共事業予算は、昨年一昨年の2,600億円を大きく上回る2,825億円を確保することができました。

これはひとえに、会員の皆様のご支援・ご協力の賜物です、ありがとうございました。今後とも予算獲得に向け十分気を引き締めて、取り組んで参りたいと考えております。

本協会の主な動向 (10月~12月)

10月

17日(土)・18日(日) とくしま木づかいフェア2020
(板野町：あすたむらんど)

11月

18日(水) 森林整備・治山事業促進議員連盟「緊急決起大会」
2020治山・林道のつどい
令和2年度全国森林土木建設業協会技術労働委員会
(東京都)

19日(木) 徳島県選出国議員要望活動
令和2年度日本林道協会通常総会
令和2年度治山・林道コンクール表彰式 (東京都)

25日(水)~27日(金) 令和2年度森林土木総合技術研修会
(徳島市：林業人材育成棟)

12月

7日(月)~9日(水) 令和2年度治山林道技術研修会
(三好市、徳島市、那賀町)

21日(月) 令和2年度治山林道事業に関する知事要望 (徳島市)